100th おかげさまで100周年

100 years of challenge

SUZUKI HISTORY 革新期 １９９８年 Ｋｅｉ



１９９８年１０月（HN11S）

■主要諸元　（発売日 1998年１０月７日）
●エンジン型式：水冷直 F6A 型　直列３気筒 SOHC　ＩＣ付ターボ
●総排気量：657ｃｃ　　●ミッション：5MT車/３ＡＴ
●最高出力：60ｐｓ／6,500rpm　　64ps/6,000rpm
●最大トルク：8.5kg-m/4,000rpm　10.8kg-m/3,500rpm
●車両重量：660kg～760Kg
●発売当時価格：718,000 円～（消費税別）
●製造販売期間：1998 年 10 月～2009 年 10 月



発売当初は３ドアでした



Kei ワークス 2002 年発売







●コンセプトカー「UR-1」　●座面が高く運転しやすいコックピット　●Kei のミニカー

1995 年の東京モーターショーには「UR-1」というコンセプトカーで出展され話題に。山本寛斎氏がデザインした特別使用車「Kei　Uo　To　You　KANSAI」も発売。デニム調のブルーのシートが特徴でハンドルがブルーとブラックの２色デザインを採用。一流デザイナーがデザインした事も画期的でした。2002 年には国際スキー連盟の FIS とタイアップしたＦＩＳフリースタイルワールドカップ リミテッドも発売。過去に行われていたモータースポーツレース、スズキ・ワンメイクレース出場用の Kei スポーツＲというグレードも存在していました。

セダンと SUV を混ぜ合わせた新コンセプトの軽自動車として開発され、都会も悪路オフロードも似合う元祖軽クロスオーバーとしてデビュー。軽自動車の軽=「Kei」をそのままネーミングし「軽の中の軽を目指す」という意味が込められました。1998 年の発売時から 1 度もフルモデルチェンジされず約 11 年に渡って生産販売されていた長寿モデルでした。当時の軽では珍しい大径１４インチタイヤを採用し最低地上高 185cm（4WD）で車高が高く東北・北陸・北海道地域などの雪国ではスマッシュヒットとなりました。Kei から同じ Kei に買替されるユーザーも多く他社にない使い勝手の良い１台として人気を博しました。欧州のコンパクトカーのようなお洒落なデザインで乗り降りもしやすく視界のよいヒップポイントの高さが好評でした。アルトワークスの後継モデル Kei ワークスもラインアップ。後の初代スイフトのベースモデルでもありました。

1998年（平成10年）のできごと

- 2･2　郵便番号の 7 桁化が開始
- 2･7　長野冬季オリンピック開幕
- 6･10　FIFA ワールドカップ開幕　日本代表が初参加
- 7･30　小渕内閣発足
- ～1998 年流行語　「ハマの大魔神」、「だっちゅーの」など